第五萬壹千四拾貳號

工場財團抵當金錢消費貸借契約證書謄本

本職ハ當事者間ニ於ケル法律行爲ニ關シ聽取シタル陳述ヲ錄取スルコト左ノ如シ

第壹條　株式會社日本興業銀行（以下債權者ト稱ス）ハ富士電機製造株式會社（以下債務者ト稱ス）ニ金四百萬圓ヲ貸渡シ債務者ハ之ヲ借受ケタリ

第貳條　本借用金ノ辨濟期限ハ其ノ終期ヲ昭和拾八年拾貳月五日トシ昭和拾六年九月參拾日ヲ第壹回トシテ以後毎年參月參拾壹日及九月參拾日ノ兩度ニ金參拾萬圓以上宛分割辨濟ノ上終期ニ殘額金部ヲ完濟スルモノト

第參條　本借用金ノ利息ハ年五分即チ百圓ニ付五圓ノ割合ヲ以テ毎年參月參拾壹日及九月參拾日ノ兩度ニ前六

ヶ月分ヲ支拂フモノトス但シ六ヶ月ニ滿タサル場合ハ日割計算トス

第四條　債務者ノ現ニ有スル未拂込株式ノ拂込金並ニ將來增資ニ依ル拂込金ハ債權者ノ請求ニヨリ之ヲ本債務ノ辨濟資金ニ充當スルモノトス

債務者カ前項ノ拂込金ヲ徵收セントスルトキハ豫メ債權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第五條　本借用金ノ元利金其ノ他金錢ノ支拂場所ハ債權者ノ本店營業所トス

債權者ハ必要ニ應シ前項ノ支拂場所ヲ自己ノ支店又ハ其ノ他ノ場所ニ指定シ得ルモノトス

第六條　債務者ハ本契約ニ依ル債務ノ擔保トシテ其ノ所有ニ係ル左記工場財團ノ上ニ第五順位ノ抵當權ヲ設定シタリ

抵當権設定物件表示

工場財團

工場財團ノ表示

一、工場ノ名稱

富士電機製造株式會社川崎工場

一、工場ノ位置

川崎市田邊新田壹番地

一、主タル營業所

川崎市田邊新田壹番地

一、營業ノ種類

電氣其他ノ機械器具ノ製造輸入及販賣並ニ之ニ關聯スル代理販賣其他一切ノ業務ヲ營ム

工場財團目錄別紙ノ通リ

第七條　債務者ハ前條ニ依ル抵當權設定ノ登記ヲ遅ヘシ遅ニ完了シ其ノ登記簿謄本ヲ債權者ニ提出スヲ

第八條　債務者ハ本契約ニ依ル債務ノ全部ヲ辨濟スルニ至ル迄第六條記載ノ工場經營ニ關シ新ニ取得シタル物件又ハ權利ニシテ工場財團ノ組成シ得ヘキモノアルトキハ遅滯ナク之ヲ本契約ニ依ル債務ノ擔保ニ追加スル手續ヲ爲スヘシ

第九條　工場財團ニ屬セサル財産ト雖モ債權者ノ請求アルトキハ債務者ハ本契約ニ依ル債務ノ擔保トシテ遅滯ナク其ノ財産ニ付質權又ハ抵當權ノ設定ヲ爲スヘキモノトス

第拾條　前貳條ノ場合及工場財團ニ屬スル物件又ハ權利ニ異動ヲ生シタル場合ニハ債務者ハ直ニ登記其

他必要ナル手續ヲ完了シ其ハノ登記濟證又ハ登記簿謄本ヲ債権者ニ提出スヘシ

第拾壹條　第六條第八條及第九條ニ依リ擔保ニ供セラレタル一切ノ物件若ハ権利カ原因ノ何ヲ問ハス変更消滅シ又ハ其價格ニ減少ヲ来シタルトキハ債務者ハ直ニ其債権者ニ通知スヘシ

前項場合ニ於テ債務者ハ債権者ノ請求ニ依リ増擔保若ハ代リ擔保ヲ提供シ又ハ債務ノ全部若ハ一部ノ辨済ヲ為ス等凡テ債権者ノ請求ニ應スヘキモノトス

第拾貳條　債務者ハ本契約ニ依ル債務ノ擔保タル工場財團ヲ債権者ノ承諾ナクシテ讓渡シ又ハ他ニ擔保ニ供スルコトヲ得サルモノトス

第拾參條　債務者ハ抵當物件中火災保險ニ附シ得ヘキ一切ノ物件ニ付既ニ債権者ニ提供セル保險證券ノ金額ト併セテ金壹千五百萬圓以上ノ火災保險契約ヲ債権者ノ承認シタル火災保險會社ト締結シ本契約ニ依ル債務ノ全部ヲ辨済スルニ至ル迄之ヲ継續スルモノトス

前項ノ保險契約ニ付テハ債務者ハ該保險證券ノ債權者ニ提出シ債權者ノ爲ニ保險金請求權ノ上ニ質權ノ設定ヲ爲スヘキモノトス

第壹項保險契約ノ繼續ハ保險契約滿期日前之カ手續ヲ了シ該期日迄ニ其繼續證ヲ債權者ニ提出スヘシ

債權者ニ於テ保險會社又ハ保險契約ノ變更其ノ他權利保全ニ必要ナル請求ヲ爲シタル場合ニハ債務者ハ其ノ要求ニ應スル義務アルモノトス、債務者カ保險會社又ハ保險契約ヲ變更セントスル場合ニハ豫メ債權者ノ承諾ヲ受クヘシ

抵當物件中火災保險ニ附シ得ヘキ物件ニ付債權者カ自ラ之ヲ目的トスル火災保險契約ヲ締結セントスルトキハ債務者ニ於テ何等異議ナ

ギモノトシ債権者ハ本契約證書ヲ債務者ノ同意書トシテ使用スルコトヲ得ルモノトス

債権者ハ権利保全ノ為債務者ニ代リ保険料ヲ支拂ヒ保険契約ノ継續ヲ為スカ又ハ必要ナル保険契約ヲ締結シタル場合ニハ債務者ハ債権者ノ支拂ヒタル保険料ニ百圓ニ付日歩四銭ノ割合ニ當ル賠償金ヲ付シテ債権者ニ辯濟スヘシ

保険ノ目的物件罹災ノ場合ニ於テ債務者ハ火災保険會社ニ提出スヘキ火災ノ狀況調書及損害見積書ノ寫ヲ豫メ債権者ニ送付スヘシ

債務者ハ火災保険會社ト損害塡補額ノ協定ヲ為サントスルトキハ豫メ債権者ノ承認ヲ受クヘシ

保険ノ目的物件罹災ノ場合ニ於テ債権者ハ保険會社ヨリ保険金ヲ受領シタルトキハ債権者ハ債務者ニ

對シ其ノ金額ヲ限度トシテ債務辨濟期限ノ利益ヲ失ハシメ債權者カ受領シタル金額ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充當スルモ債務者ニ於テ異議ナキモノトス

第拾四條　債務者カ第貳條ノ規定ニ依ラス期限前ニ本借用金ノ一部又ハ全部ヲ辨濟セントスル場合ニハ豫メ債權者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ債務者ハ辨濟金額ノ百分ノ貳ノ手數料ヲ債權者ニ支拂フヘシ

第拾五條　債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ニ對シ特ニ催告ヲ爲スヲ要セスシテ期限ノ利益ヲ失ハシメ直ニ債務ヲ完濟セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テモ債權者ハ前條第貳項ノ手數料ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

壹　債務者又ハ保證人ニ於テ本契約ニ違反シ其ノ他

背信ノ行為アリタルトキ

貳、第三者ヨリ抵當物件其他債務者又ハ保證人ノ財産ニ對シ假差押假處分、强制執行、競賣ノ申立又ハ公租公課ノ滯納ニ因ル差押ヲ受ケタルトキ

參、債務者ニ對シ商法第參百八拾壹條ニ依ル整理ノ申立又ハ通告アリタルトキ

四、債務者又ハ保證人カ自ラ破産又ハ和議ノ申立ヲ爲シ或ハ第三者ヨリ破産ノ申立アリタルトキ

五、原因ノ如何ヲ問ハス債權者ニ於テ債務者カ本契約ノ履行ヲ爲スコト能ハサルヘシト認メタルトキ

第拾六條　債務者カ本契約ニ違反シ債務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ催告其ノ他法定ノ手續ニ依ラス隨意ニ本契約ニ依ル擔保物件ヲ處分シ之ヲ以テ本債務ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ債務者ハ

處分ノ方法時期價格其ノ他ノ事項ニ關シ異議ナキハ勿論之カ爲損害アルモ債權者ニ對シ之カ賠償ヲ請求セサルモノトス

債務者ハ前項ノ處分ニ必要ナル擔保物件ノ權利證書及委任狀其ノ他一切ノ書類ヲ豫メ債權者ニ交付スヘシ

第拾七條　債務者ハ本借用金ノ元利金支拂期日ニ於テ之カ支拂ヲ爲ササルトキ又ハ本契約ニ依リ期限ノ利益ヲ失ヒタル爲債權者カ支拂期日ヲ指定シタル場合ニ於テ之カ支拂ヲ爲ササルトキハ其ノ期日ノ翌日ヨリ支拂當日迄支拂フヘキ金額ニ對シ百圓ニ付日歩四錢ノ割合ニ當ル損害賠償金ヲ支拂フヘシ

第拾八條　債權者ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ

債務者ノ書類及帳簿並ニ財産及營業ノ狀態ヲ調査シ得ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ債務者ハ債權者ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘキハ勿論之カ爲ニ債權者ノ要シタル費用ハ債務者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス

第拾九條　債務者ハ毎決算期ニ於テ營業報告書、貸借對照表及損益計算書等債權者カ債務者ノ營業狀態ヲ知ルニ必要ナリト債權者ニ於テ認ムル一切ノ書類ヲ債權者ニ提出スヘキハ勿論決算及利益金處分ニ付テハ豫メ債權者ノ承認ヲ受クヘシ

第貳拾條　本證書ノ作成並ニ登記其ノ他本契約ニ關スル一切ノ費用ハ債務者ニ於テ全部之ヲ負擔スヘキモノトス

第貳拾壹條　吉村萬治郎ハ本契約ヨリ生スル一切ノ

債務ニ付個人ノ資格ヲ以テ保證人ト為リ取締役任在中ハ勿論其ノ退任後ト雖モ債務者ト連帶シ債務者保證人間ノ保證委託契約ノ效力ニ拘ラス債務履行ノ責ニ任スヘキモノトス

第貳拾貳條　保證人カ本債務ノ全部又ハ一部ヲ辨濟シ債權者ニ代位シテ抵當權ヲ取得シタル場合ニ於テハ該保證人ハ遅滯ナク債權者ノ為ニ其ノ取得シタル抵當權若クハ其ノ順位ヲ讓渡又ハ拋棄スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テ債務者及保證人ハ連ニ之ニ關スル登記手續ヲ為スヘシ

第貳拾參條　債務者及保證人ハ本契約ニ違反シタルトキハ直ニ强制執行ヲ受クヘキコトヲ認諾シタリ

第貳拾四條　本契約ヨリ生スル權利義務ニ關シ爭ヲ生シタルトキハ東京民事地方裁判所ヲ以テ之カ管轄

裁判所トス

本旨外要件

東京市麹町區丸ノ内壹丁目八番地壹

債權者　株式會社日本興業銀行

右銀行總裁

東京市澁谷區代々木初臺町四百六拾七番地

實　來　市　松

明治拾四年拾壹月生

右者法定代表ノ權限ヲ證スヘキ適法ノ認證アル證書ヲ以テ其資格ヲ證明セシメタリ

東京市品川區五反田五丁目七拾番地

銀行員

右代理人　立　明　正

大正元年拾貳月生

右者本職氏名ヲ知リ且面識アルモノナリ

右者代理権限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其権限ヲ證明セシメタリ

右證書ハ認證ヲ受ケサル私署證書ナルニ因リ法定ノ印鑑證明書ヲ提出セシメ其證書ノ眞正ナルコトヲ證明セシメタリ

川崎市田邊新田壹番地

債務者　富士電機製造株式會社

右會社代表取締役

東京市芝區高輪南町四拾四番地

吉村萬治郎

明治拾九年參月生

右者法定代表ノ権限ヲ證スヘキ適法ノ認證アル證書ヲ以テ其資格ヲ證明セシメタリ

日本標準規格B列五號（司法省用紙）

東京市芝區高輪南町四拾四番地
會社員
連帶保證人　吉村　蘭治郎
明治拾九年參月生
東京市赤坂區青山北町六丁目五拾五番地
銀行員
右貳名代理人　岩井　欣　五
大正參年六月生
右者本職氏名ヲ知リ且面識アルモノナリ
右者代理權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其權限ヲ證明セシメタリ
右證書ハ認證ヲ受ケサル私署證書ナルニ因リ法定ノ印鑑證明書ヲ提出セシメ其證書ノ眞正ナルコトヲ證明セシメタリ

右列席者ニ讀聞カセタル處各自之ヲ承認シ左ニ署名捺印ス

立　明　正

岩井　欣　五

此證書ハ昭和拾五年拾貳月參日本職役場ニ於テ作成シ左ニ署名捺印スルモノナリ

東京市麹町區丸ノ内壹丁目六番地壹

東京民事地方裁判所廳

公證人　佐竹　巳之　松

此謄本ハ債務者富士電機製造株式會社ノ請求ニ依リ昭和拾五年拾貳月參日本職役場ニ於テ原本ニ就キ作成シタルモノ也

東京市麹町區丸ノ内壹丁目六番地壹

東京民事地方裁判所廳

公證人　佐竹已之松

司法省

寫

昭和十五年十二月廿六日

株式會社日本興業銀行
貸付課

富士電機製造株式會社
御中

拜啓愈御隆昌奉賀候陳者今般御融通申上候貴社御借入金四百萬圓也ニ付貴社御所有横濱工場財團ニ對シ昭和拾五年拾貳月參日受附第記第壹六號ヲ以テ設定登記ヲ受ケタル抵当權ニ係ル登記壹四參五貳號ヲ以テ設定登記ヲ受ケタル抵当權ニ係ル登記簿抄本壹部至急御送附被下度此段御依頼旁得貴意候

敬具

司法省

第六

保存期限	決裁指定	決行指定
三年		局長

陸軍

政務次官 参與官 回付

決裁前後 連帶課名 工政

決行(決裁)後 回覧課名 防衛

受領番號 壹第一七六號

件名 軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿謄本交付ニ關スル件

起元廳(課)名

大臣 委

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
防衛甲第二〇號	昭和六年一月二十日	昭和六年一月三十日	昭和 年 二月五日	昭和 年 二月一日

政務次官	次官 委	主務局長	
参與官	高級副官	主務課長	
書記官	主務副官 官房御用掛 主計	主務課員	
審査 筆記者			

連帶	決行(決裁)後回覧
局長	局長
課長	課長

（陸密）

大臣ヨリ司法大臣ヘ回答

一月十六日附司法省民事局秘第四號ヲ以テ協議相成候
首題ノ件當方ニ於テハ許可相成差支無之此
段及回答候

追テ交付書類ノ取扱ニ付テハ保秘上十分注
意セラルル樣出願人ニ指示相煩度申添候

陸密第三〇二一號　昭和十六年二月五日

35

電資秘

工政

陸軍受第一七六

司法省民事局祕第四號

昭和十六年一月十六日

司法大臣　柳川平助

陸軍大臣　東條英機殿

軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿謄本交付許可申請ニ關スル件

藤倉工業株式會社ヨリ別紙ノ通軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿謄本（工場財團目錄ノ謄寫ヲ除ク）壹通交付許可申請有之ニ對シ許可致度軍用資源祕密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也

陸軍省 昭和 16.1.17 午前 官房
陸軍省 16.1.20 防衛課
陸軍省 16.1.17 工政課

寫

軍資秘

昭和拾五年拾弐月弐拾四日

東京區裁判所南品川出張所

裁判所書記　有馬靜一

司法大臣　柳川平助殿

昭和拾四年司法省令第二十六號第二條ニ依ル登記法謄本交付

許可申請書進達ニ関スル件

申請人

東京市品川区五反田参丁目百参拾弐番地

藤倉工業株式会社

右代表取締役　関口善吉

右申請人ヨリ昭和拾五年拾弐月弐拾参日付左記工場財団登記法謄本交

付許可申請有之候條意見書相添へ此段及進達候也

記

工場ノ名称及位置

東京市品川区五反田参丁目百参拾弐番地

藤倉工業株式会社本社工場

仝市仝区大井鮫洲町弐百拾九番地

藤倉工業株式会社品川工場

埼玉縣浦和市常盤町五丁目八拾壱番地

藤倉工業株式会社浦和工場

生タル営業所

東京市品川区五反田参丁目百参拾弐番地

営業ノ種類

一、護謨防水布及ヒ護謨製品ノ製造並ニ販売

二、各種氣嚢及ビ浮嚢ノ製造並ニ販賣

三、航空機自動車ノ附屬品部品及ビ材料ノ製造並ニ販賣

四、防毒瓦斯材ノ製造並ニ販賣

五、電氣用材料品ノ製造並ニ販賣

六、前各号ニ附帯スル事業ノ経営又ハ之ニ対スル投資

司法省

寫

意見書

東京市品川区五反田参丁目百参拾弐番地藤倉工業株式會社代表取締役
関口善吉ヨリ工場財團登記法謄本交付申請ニ関スル許可申請ニ関シ
申請ノ事由且之ヲ疏明シタル事項ニ付調査ヲ遂ケタル處申請人会社ハ申
請ノ目的タル工場財團ヲ担保トシ金弐百五拾萬圓借入ノ金圓貸借契約
ヲ東京市蒲田町区丸ノ内壱丁目八番地壱株式会社日本興業銀行ト締結シ
之カ抵当權設定登記ヲ昭和拾五年九月弐拾壱日完了シタルハ事実ナリ
而シテ債務者タル本件申請人会社ハ右抵当權設定登記完了後其工場財團
登記法謄本ヲ債權者ニ提出スル旨ノ契約ニ基キ之カ提出ノ義務履行ノ爲本
件許可申請ニ及ヒタルハ申請ノ事由ニ疏明シタル事項ト何等ノ相違ナシ
從来一般的ニ工場財團抵当權設定ノ登記ヲ爲シタルトキ債權者ハ登記法ノ
閲覧申請ヲ爲シ其記入ノ正確ト他物權ノ設定ノ有無等ヲ取調ベタル后或
ハ登記法謄本ノ提示ヲ債務者ニ要求シ然ル后ニ金圓ノ授受ヲ爲ス習慣

アルモノ、如ク本件ノ場合ニ於テモ其契約ノ公正證書ニ債務者ハ抵当権設定
登記完了后ハ速カヽ債権者ニ登記法謄本ヲ手交スヘキ旨ノ契約アリタルコト
明白ノ事実ナレハ工場財團目録ノ謄本ヲ要セサル登記法謄本交付ニ付
御許可相成可然キモノト思料候
右意見及開陳候也

昭和拾五年拾弐月弐拾四日

東京区裁判所南品川出張所

裁判所書記　有馬　静一

寫

工場財團登記簿謄本交附申請ニ関スル許可申請

一、申請ノ目的

東京市品川区五反田参丁目百参拾貳番地

藤倉工業株式會社　本社工場

同市　同区大井鮫洲町貳百拾九番地

藤倉工業株式會社　品川工場

埼玉縣浦和市常盤町五丁目八拾壹番地

藤倉工業株式會社　浦和工場

右工場財團登記簿謄本　壹通

一、申請ノ事由

工場財團抵当權者タル東京市麹町区丸ノ内壹丁目八番地壹株式會社日本興業銀行ヘ提出ノ為メ

当會社ハ事業設備ノ充實及工場擴張ノ為メ之カ事業資金トシテ借入レニ付工場財團ヲ組成シ株式會社興業銀行ヨリ申請ノ目的タル工場財團ヲ擔保トシテ債權額金貳百五拾萬圓也ヲ借入レ之レカ抵当權設定ノ登記ヲ昭和拾五年九月貳拾壹日完了シタルヲ以テ債權者タル前記銀行ノ要求ニ依リ之カ提出ノ為メ必要有之候モノニ相違無之候

右疏明候也

昭和拾五年九月貳拾六日付株式會社日本興業銀行貸付課發藤倉工業株式會社宛書面壹通添付

右工場財團登記簿謄本文附申請方御許可相成度昭和拾四年司法省令第貳拾六號第貳條ニ依リ此段及申請候也

昭和拾五年拾貳月貳拾參日

東京市品川区五反田參丁目百參拾貳番地

藤倉工業株式會社

代表者　取締役　関口善吉

司法大臣　柳川平助殿

昭和十五年九月二十六日

株式會社日本興業銀行

貸付課

藤倉工業株式會社

御中

拝啓愈御隆昌奉賀候陳者去十六日附金銭消費貸借契約
證書ニ基ク貴社御借用金弐百五拾萬圓也ニ付テハ貴社御所有ニ
係ル東京区裁判所南品川出張所登記第六四號工場財團ニ
第壹順位抵当權設定相受候ニ付テハ抵当權登記事項ノ内容承
知致度候ニ付至急財團登記簿謄本壹通（目録添附不要）
御提出相煩度此段御依頼旁得貴意候

敬具

第七

保存期限 三年

決裁指定 局長

決行指定

政務次官 参與官 回付 決裁前 後 連帶課名 工政

決行（決裁）後 回覧課名 防衛

受領番號 壹第三五七號

起元廳（課）名 司法省

件名 軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿閲覧ノ許可ニ關スル件

陸軍

大臣 委

政務次官 委

参與官

書記官

審案筆記者

主務局長

主務課長

主務副官 官房御用掛主計

主務課員

主務局課

番號	受領	提出
防衛甲第二一號	昭和十六年一月二十九日	昭和十六年二月一日

大臣官房

受領	結了
昭和 年 二月五日	昭和 年 一月 日

決後 決行（決裁）回覧 連帶

局長 課長

局長 課長

（陸密）

大臣ヨリ司法大臣ヘ回答

一月二十八日附司法大臣秘第一〇號ヲ以テ協議相成候首題ノ件當方ニ於テハ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第三〇一號　昭和十六年二月五日

大日本帝國政府

司法省民事局秘第一〇號

昭和十六年一月二十八日

司法大臣　柳川平助

陸軍大臣　東條英機　殿

軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿閲覽許可申請ニ關スル件

株式會社日本勸業銀行ヨリ別紙ノ通軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿（工場財團目錄ヲ除ク）閲覽許可申請有之之ニ對シ許可致度軍用資源秘密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也

陸軍省 16.1.28 大臣官房
陸軍 昭和 16.1.29 文書課 掛類書房
陸軍 16.1.29 防衛課
三五七

寫

昭和拾六年壹月拾五日

東京區裁判所南品川出張所

裁判所書記　有馬靜一

司法大臣　柳川平助殿

昭和拾四年司法省令第貳拾六號第貳條ニ依ル登記簿閲覧許可申請書進達ニ關スル件

申請人

東京市麻町區内幸町壹丁目壹番地

株式會社　日本勤業銀行

代表取締役

裁判所

右本店支配人 伊東靖祐

右申請人ヨリ昭和拾六年壹月拾壹日付左記工場財團登記
簿閲覧許可申請有之候條見響相添へ此段及進達候也

記

工場ノ名稱及位置

東京市品川區大井鮫洲町五拾番地

日本帶鋸株式會社 鮫洲工場

主タル營業所

東京市淀橋區仲大郷谷丁目貳番地貳

營業ノ種類

一、兵器及軍用諸機械並ニ其附屬器械ノ製造販賣

一 精密機械及一般諸機械ノ製造販賣
二 無線電信電話機械並其附屬器材ノ製造販賣
三 電気機械及器具ノ製造販賣
四 計器（特ニ商工省ノ檢定ヲ要スルモノヲ除ク）及
電気計器並ニ測定器類ノ製造販賣
五 化學工業品ノ製造販賣
六 有價證券ノ取得及處分
七 以上ニ付帶スル一切ノ業務

意見書

東京市麹町區内幸町壹丁目壹番地株式會社日本勸業銀行
支配人伊東靖祐ヨリ工場財團登記簿閲覧申請ニ關スル
許可申請ニ關シ申請ノ事由且之ヲ疏明シタル事項ニ付調
査ヲ遂ケタル處申請人會社ハ申請ノ目的タル工場財團一
登記第六拾五號一ヲ擔保トシ債權元本限度額金六拾五萬
圓也ノ根抵當金圓貸借契約ヲ昭和拾五年拾壹月貳拾貳日
東京市蒲田區仲六郷參丁目貳番地貳　日本精器株式會社
ト締結シ之カ根抵當權設定ノ登記ヲ仝年拾壹月貳拾九日
申請受付第壹〇六壹壹號ヲ以テ完了シタルハ事實ナリ
而シテ債權者タル本件申請人會社カ右根抵當權設定登記

完了后仝行貸付事務取扱内規ノ定メニ依リ本件許可申請ニ及ヒタルハ申請ノ事由及之カ疏明ノ爲メ添付シタル貸付執行順序拔萃ニ因リテ之ヲ認ムルコトヲ得

從來一般的ニ工場財團抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキ債權者ハ登記簿ノ閲覧申請ヲ提出シテ登記事項其他先順位ノ權利設定ノ有無並ニ適法ニ申請登記セラレタルヤ否ヤヲ調査シタル后或ハ登記簿謄本ノ提示ヲ債務者ニ要求シテ其登記事項其他諸手續ニ瑕疵ナキトキ初メテ現實ニ金圓ノ授受ヲ爲スモノヽ如ク本件ノ場合ニ於テモ債權者カ仝會社内規ノ定ムル處ニ從ヒ之カ閲覧ノ申請ニ及ヒタルコト明白ノ事實ナレハ本件工場財團登記簿閲覧ニ付御許可相成可然モノト思料候

右意見及開陳候也

昭和拾六年壱月拾五日

東京區裁判所南品川出張所

裁判所書記　有馬　静一

工場財團登記簿閲覧許可申請書

昭和拾六年壹月拾壹日

東京市麹町區内幸町壹丁目壹番地
株式會社日本勸業銀行
本店支配人 伊東靖祐

司法大臣
柳川平助殿

左記工場財團登記簿閲覧致度候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ御許可相成度此段及申請候也

追而右ハ債務者東京市日本精器株式會社債權者株式會社日本勸業銀行ノ間ニ於ケル昭和拾五年拾壹月貳拾貳日付根抵當金圓貸借契約證書ニ依リ債權元本限度額金六拾五萬圓也ノ擔保トシテ債務者所有ノ左記工

走字第八

場財團外一ヶ所ニ對シ根抵當權設定。
右根抵當權設定登記ハ昭和拾五年拾壹月貳拾九日受付第壹〇六壹號ヲ
以テ完了致候處當行內規ノ定メニヨリ末尾事由備記載事項ヲ調査シタ
ル後ニアラサレハ現實ニ貸付ヲ爲ササル規定アルニ因リ本申請ニ及ヒ
タル次第ニ有之候

記

一、物件ノ表示
東京區裁判所南品川出張所工場財團登記簿第六拾五號ノ工場財團

一、申請ノ目的及事由
右根抵當權設定契約ニ基ク金錢ノ授受上先順位ノ權利設定ノ有無
並ニ適法ニ申請登記セラレタルヤ否ヤ承知致度キニ依リ前記登記
簿ヲ閲覽致度

以上

貸付執行順序拔萃

自第一章至第七章第一節省略

第七章　第二節

一、抵當物カ宅地（準宅地ヲ含ム）建物山林又ハ工場其他財團ナルトキ債務者ヨリ登記完了ノ通知アリタルトキハ行員出張登記簿ノ閲覽ヲ爲シ地方ノモノニアリテハ支店ニ調査ヲ委囑スルモノトス

中略

第八章　第一節

一、登記調査ニヨリ登記事項其他諸手續ニ瑕疵ナキトキ又ハ瑕疵アルモ其ノ更正ヲ爲サシメ完全トナリタルコトヲ確メタルトキハ貸付金ノ交付ヲ爲スヘシ

以下省略

右貸付事務取扱内規寫及提出候也

昭和拾六年壹月拾七日

株式會社日本勸業銀行

本店支配人 伊東靖祐

山林又ハ工藤其他相當ナル

機密文書配付票（甲）

標記	軍資秘
件名	軍用資源秘密ニ係ル工場設置及運営ノ申請ニ関スル件
文書番號	軍資秘第一〇號
一連番號及部數	自　號　至　號　部
備考	

右貴廳宛配付致候條御査收ノ上領收證御送付有之度候

昭和十六年一月二十八日

司法大臣官房祕書課長

陸軍省整備局長殿

第八號

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長	

拾年保存

陸軍

政務次官 参與官	決裁 前 後 連帶課名	決行(決裁)後回覽課名
回付	工政	防衛

受領番號	件名
壹第六一三號	軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿謄本交付ノ件

起元廳(課)名
司法省

大臣 委

政務次官	主務局長
委	

参與官	高級副官	主務課長

書記官	主務副官 官房御用掛主計	主務課員

筆記者	寄案

主務局課		
番號	受領	提出
防衛甲第五五號	昭和十六年二月十四日	昭和拾六年貳月拾七日

大臣官房	
受領	了結
昭和 年 二月十七日	昭和 年 二月一日

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

（陸密）

大臣ヨリ司法大臣ヘ回答

二月十三日附司法省民事局秘第一三號ヲ以テ協議ニ係ル
首題ノ件當方ニ於テハ許可相成差支無之此段
及回答候

陸密第四一〇號

昭和六年二月十七日 宮田

大日本帝國政府

司法省民事局 秘第一三號

昭和十六年二月十三日

司法大臣 柳川平助

陸軍大臣 東條英機 殿

軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿謄本交付許可申請ニ關スル件

日本內燃機株式會社ヨリ別紙ノ通軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿謄本（工場財團目錄ノ謄寫ヲ除ク）壹通交付許可申請有之右ニ對シ許可致度軍用資源秘密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也

陸軍資源秘密 第一三號
陸軍省 昭和 16.2.14 前午 大臣官房
陸軍省 16.2.14 防衛課
防衛 陸 資源 司法大臣 柳川平助

寫

東京區裁判所大森出張所

裁判所書記　安部幸三郎

司法大臣　柳川平助殿

進達書

別紙ノ通リ日本内燃機株式會社ヨリ當工場財團登記簿第貳號ノ登記簿謄本交付ニ関スル許可申請書ノ提出有之候ニ付調査致候處右會社ハ其財團所屬物件中ニ蒲田出張所管轄ノ建物工場數棟有之申請ノ事由ノ如キ場合ハ添附書類トシテ登記簿ノ謄本ヲ必要トスルヲ以テ本申請ハ至當ナル事由アリト思料致候條御許可相成樣被致度右昭和拾四年司法省令第貳拾六號第四條ニヨリ此段及進達候也

司法省

工場財團登記簿謄本交付申請ニ關スル許可申請

一、申請ノ目的

東京區裁判所大森出張所工場財團登記第貳號

右工場財團登記簿謄本　壹通

一、申請ノ事由

東京區裁判所蒲田出張所ヘ建物表示變更登記申請ノ爲

當會社ハ事業設備ノ充實及工場擴張ノ爲之カ事業資金借入レニ

工場財團ヲ組成シ株式會社日本興業銀行ヨリ工場財團ヲ擔保ト

シテ資金借入レ中ノ處今般株式會社日本興業銀行ヨリノ要求ニ

ヨリ土地建物機械器具ヲ追加物件トナス爲工場財團ノ組成物件

タル建物中構造變更及增築ニ因ル建物表示變更登記申請ノ添付

書類トシテ必要有ルモノニ相違無之候

右疏明候也

機密文書配付票（甲）

標記	文書番號	一連番號及部數	備考
日本国有鉄道法第四条ノ二及ノ二ノ二ノ二

電報 九

秘

米二秘第四三六五號

昭和十六年十一月二十日

陸軍次官殿

外務次官

別紙添附

巴奈馬排日問題ニ關シ帝國政府ノ正式抗議ニ對スル巴奈馬側回答ノ件

本件ニ關シ今般在巴奈馬秋山公使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

外務省

(日本標準規格B5)

第一〇號

拾年保

昭和十六年十一月十一日

會計檢査院長官房

陸軍省御中

拜啓

會計檢査法規集加除篇第二號

三部御送付

申上候間貴内可然御配付被下度候

別冊 八當課ニ保管ス
主務者印
檢査課
12月1日
陸軍省
16.11.12
監査課
16.11.12 前午 大臣官房

第一一一號

十二月六日

別紙

當課ニ保管	主務者印
11月28日	岩崎
器材課	

一六總第四一七二號

昭和十六年十一月五日

商工次官　椎名悅三郎

陸軍次官　木村兵太郎　殿

決定臨時日本標準規格ニ關スル通知方ノ件

豫テ及御通知置候臨時日本標準規格制定要項ニ依リ今般工業品規格統一調査會々長ヨリ左記日本標準規格審議決定セル旨報告越候ニ付テハ不日官報彙報欄ヘ掲載公表可致候條其ノ實施普及ニ關シテハ何分ノ御配意相煩度此段御通知旁々得貴意候也

記

（別紙添附）

拾年保

陸軍

16.11.6.

商工省

一、鋼盤精度檢査
二、平削盤精度檢査
三、電弧熔接工資格檢定
四、鋼材用電弧熔接棒
五、自動車用タイヤ及リムノ大サノ表示方法
六、自動車用深底リムノ輪廓及外周

第一二號

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長	局長
	委任	委任

政務次官 參與官 回付 決裁前 連署 課名 主計、軍務、工政

決行(決裁)後 回覽 課名

拾年保

受領番號	件名
壹第五七三一號	貯蓄實踐強調運動實施ノ件

起元廳(課)名 國民貯蓄奬勵局

大臣 委

主務局課 番號	主務局課 受領	主務局課 提出	大臣官房 受領	大臣官房 了結
二三六	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 十一月 十日	昭和 年 十二月 六日

政務次官	主務局長	次官	高級副官	主務課長	主務副官 宮房主計	主務課員
代		委				

參與官	書記官	審査	案	錄記者

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

陸普案

副官ヨリ陸軍一般ヘ通牒

現下臨戦經濟下ニ於ケル國民貯蓄ノ增強ハ愈々緊切ナルモノアル處今般政府ニ於テハ別紙要綱ニ依リ貯蓄實踐强調運動ヲ實施シ極力消費抑制貯蓄增强ニ努メ時艱ノ克服ニ邁進スルコトニ定メラレタルニ付各部隊ニ於テハ本運動ノ趣旨ニ鑑ミ貯蓄實踐ニ關シ特ニ留意スルノ外軍需動員部隊ニ在リテハ關係工場ニ對シテモ可然指導相成度依命通牒ス

陸普第八五九三號　昭和拾六年十一月廿壹日

貯蓄實踐强調運動實施要綱

國民貯蓄奬勵局

一、趣旨

支那事變ノ目的ヲ完遂シ緊迫セル國際情勢ニ對處スル爲戰時体制ノ急速ナル整備ハ現下喫緊ノ要務ナリ而テ之ガ所要資金ノ調達上ハ勿論、購買力吸收ノ見地ヨリスルモ貯蓄增强ノ要ハ愈々緊切ニシテ之ガ成否ハ洵ニ戰時財政經濟ノ圓滑ナル運營如何ノ岐ルル所ナリ依テ此ノ際特ニ本運動ヲ起シ擧國一致更ニ貯蓄報國ノ念ヲ振起シ戰時生活ヲ確立シ貯蓄ノ實踐ニ努メ以テ時艱克服ニ邁進セントス

二、名稱

貯蓄實踐强調運動

三、期間

自昭和十六年十二月四日（木）
至昭和十六年十二月十三日（土）十日間

四、實施要領

「昭和十六年度國民貯蓄奬勵要綱」及「昭和十六年度國民貯蓄奬勵實施要目」ニ基キ左ノ事項ニ重點ヲ置キ國民貯蓄實踐運動ノ强化促進ヲ圖ルコト

1. 緊迫セル國際情勢ニ照應スル鞏固ナル戰時生活ノ確立及貯蓄增加

ノ重要性ノ愈々増大シ來レルコトヲ一般ニ徹底セシムルコト

2. 道府縣ヲ市町村ヲ會社工場鑛山ヲ商工關係團體ヲ農林水産關係團體ヲ國民貯蓄組合及金融機關團體等ニ於テハ貯蓄實績ニ再檢討ヲ加ヘ一段ト成績ノ向上ニ努メ必ズ目標額以上ノ成果ヲ期スルコト

3. 戰時貯蓄ノ目的ヨリ見テ組合貯蓄ノ特ニ重要ナル所以ヲ强調シ以テ國民貯蓄組合ノ發達强化ヲ圖ルコト

4. 年末ニ於ケル收入增加ノ實情ニ鑑シ特ニ貯蓄率ノ引上ヲ行フ等年末購買力吸收手段ヲ講ズルコト

5. 賞與國債支給運動ノ趣旨徹底ヲ圖ルコト

6. 時局ノ緊迫化ニ伴フ貯蓄ノ障害トナルベキ言動ノ除去ニ努ムルコト

五、實施上ノ注意

1. 本運動ノ實施ニ當リテハ各地方ノ實情ニ應ジ適切ナル實施計畫ヲ樹テ效果ノ萬全ヲ期スルコト

2. 都市方面並ニ殷賑産業關係者及大所得者ノ實踐ヲ特ニ促進スルコト

3. 本運動期間中ハ特ニ各方面ニ亘リ戰時生活ノ確立及貯蓄實踐ニ背馳スルガ如キ事項ヲ極力抑制スルコト

4. 特別ノ事情アル地方ニ於テハ本運動ノ期日ヲ多少變更スルモ差支ナキコト

ノ重要性ノ愈々増大シ來レルコトヲ一般ニ徹底セシムルコト

2. 道府縣、市町村、會社工場鑛山、商工關係團體、農林水産關係團體、國民貯蓄組合及金融機關團體等ニ於テハ貯蓄實績ニ再檢討ヲ加ヘ一段ト成績ノ向上ニ努メ必ズ目標額以上ノ成果ヲ期スルコト

3. 戰時貯蓄ノ目的ヨリ見テ組合貯蓄ノ特ニ重要ナル所以ヲ强調シ以テ國民貯蓄組合ノ發達强化ヲ圖ルコト

4. 年末ニ於ケル收入增加ノ實情ニ鑑シ特ニ貯蓄率ノ引上ヲ行フ等年末購買力吸收手段ヲ講ズルコト

5. 賞與國債支給運動ノ趣旨徹底ヲ圖ルコト

6. 時局ノ緊迫化ニ伴フ貯蓄ノ障害トナルベキ言動ノ除去ニ努ムルコト

五、實施上ノ注意

1. 本運動ノ實施ニ當リテハ各地方ノ實情ニ應ジ適切ナル實施計畫ヲ樹テ效果ノ萬全ヲ期スルコト

2. 都市方面並ニ殷賑産業關係者及大所得者ノ實踐ヲ特ニ促進スルコト

3. 本運動期間中ハ特ニ各方面ニ亘リ戰時生活ノ確立及貯蓄實踐ニ背馳スルガ如キ事項ヲ極力抑制スルコト

4. 特別ノ事情アル地方ニ於テハ本運動ノ期日ヲ多少變更スルモ差支ナキコト

大日本帝國政府

貯第五一八號

昭和十六年十一月六日

國民貯蓄奨勵局長官

陸軍次官殿

貯蓄實踐强調運動實施ノ件

別紙要綱ニ依リ「貯蓄實踐强調運動」ヲ實施致候條御協力相煩度此段得貴意候

昭和十六年十一月十三日（土）十日間

國際情勢ニ鑑ミ國民貯蓄奨勵ヲ通ジテ國民ノ戰時体制ノ確立ヲ期スルコトハ急務ナリ而テ之ガ為ニハ物心両面ニ亘リ戰時経済ノ圓滑ナル運營如何ノ問題ニ關シ本邦國一致ノ目標ニ貯蓄報國ノ念ヲ振起シ戰時生活ニ適応セシムルコトハ國際情勢ニ鑑ミ緊要ナル事項ニ屬シ特ニ國民貯蓄實踐運動ノ强化促進ニ重點ヲ置キ國民貯蓄奨勵ノ強化ト

處理済ニ付返済ス

陸軍省 受付 五七三一
陸軍省 昭和16.11.8.
大臣官房
陸軍省 16.11.8.
監督部

貯蓄實踐强調運動實施要綱

國民貯蓄奬勵局

一、趣旨

支那事變ノ目的ヲ完遂シ緊迫セル國際情勢ニ對處スル爲戰時体制ノ急速ナル整備ハ現下喫緊ノ要務ナリ而テ之ガ所要資金ノ調達上ハ勿論、購買力吸收ノ見地ヨリスルモ貯蓄增强ノ要ハ愈々緊切ニシテ之ガ成否ハ洵ニ戰時財政經濟ノ圓滑ナル運營如何ノ岐ルル所ナリ依テ此ノ際特ニ本運動ヲ起シ擧國一致更ニ貯蓄報國ノ念ヲ振起シ戰時生活ヲ確立シ貯蓄ノ實踐ニ努メ以テ時艱克服ニ邁進セントス

二、名稱

貯蓄實踐强調運動

三、期間

自昭和十六年十二月四日（木）
至昭和十六年十二月十三日（土）十日間

四、實施要領

「昭和十六年度國民貯蓄奬勵要綱」及「昭和十六年度國民貯蓄奬勵實施要目」ニ基キ左ノ事項ニ重點ヲ置キ國民貯蓄實踐運動ノ强化促進ヲ圖ルコト

1. 緊迫セル國際情勢ニ照應スル銃後周ナル戰時生活ノ確立及貯蓄增加

ノ重要性ノ愈々增大シ來レルコトヲ一般ニ徹底セシムルコト

2. 道府縣。市町村。會社工場鑛山。商工關係團體。農林水產關係團體。國民貯蓄組合及金融機關團體等ニ於テハ貯蓄實績ニ再檢討ヲ加ヘ一段ト成績ノ向上ニ努メ必ズ目標額以上ノ成果ヲ期スルコト

3. 戰時貯蓄ノ目的ヨリ見テ組合貯蓄ノ特ニ重要ナル所以ヲ强調シ以テ國民貯蓄組合ノ發達强化ヲ圖ルコト

4. 年末ニ於ケル收入增加ノ實情ニ鑑シ特ニ貯蓄率ノ引上ヲ行フ等年末購買力吸收手段ヲ講ズルコト

5. 賞與國債支給運動ノ趣旨徹底ヲ圖ルコト

6. 時局ノ緊迫化ニ伴フ貯蓄ノ障害トナルベキ言動ノ除去ニ努ムルコト

五、實施上ノ注意

1. 本運動ノ實施ニ當リテハ各地方ノ實情ニ應ジ適切ナル實施計畫ヲ樹テ效果ノ萬全ヲ期スルコト

2. 都市方面並ニ殷賑產業關係者及大所得者ノ實踐ヲ特ニ促進スルコト

3. 本運動期間中ハ特ニ各方面ニ亘リ戰時生活ノ確立及貯蓄實踐ニ背馳スルガ如キ事項ヲ極力抑制スルコト

4. 特別ノ事情アル地方ニ於テハ本運動ノ期日ヲ多少變更スルモ差支ナキコト

第一三號

保存期限	決裁指定	決行指定
十年	司長	

政務次官 參與官 拾年保

決裁 前後 連帶課名

決行(決裁)後回覽課名

受領番號	件名
壹第六一四一號	豐後水道夜間(一日沒ヨリ日出迄)航行禁止ニ關スル件

起元廳(課)名 海軍省

大臣 委

主務局課	番號	受領	提出	受領	大臣官房	受領	了結
	運日第八八號	昭和十年十月三日	昭和〃年〃月四日	昭和年十月四日		昭和年十二月六日	

政務次官	主務局長	次官	高級副官	主務課長	主務副官	主務課員	參與官	書記官	審案筆記者
	代	委							

決行(決裁)後回覽	連帶
局長	局長
課長	課長 軍事參本第二課 防衛 代 第四 第十

陸密

次官ヨリ陸軍運輸部長、船舶輸送司令官、中部、西部軍司令官、防衛司令官、憲兵司令官、下關、豐橋、由良要塞司令官ニ通牒、

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通海軍省ヨリ申越アリタルニ付承知相成度

陸密第三七五〇號

昭和拾六年十二月四日

陸密

次官ヨリ海軍次官ニ回答

書題ノ件ニ付十二月二日附官房機密第一一三〇五號照會ノ趣關係部隊ニ對シ通牒致置候條承知相成度及回答候也

陸密第三七五〇號

昭和拾六年十二月四日

軍極秘

陸軍大臣

防衛

文通

官房機密第一三〇〇号

陸軍省受信 第六一四一

昭和十六年十二月二日

陸軍大臣
海軍大臣
陸内務大臣
農林大臣
拓務大臣
大蔵大臣
逓信大臣
鉄道大臣
満州国総務長官

豐後水道夜間（日没ヨリ日出迄）航行禁止ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ軍事上ノ必要ニ基キ左記ニ依リ實施可致候條所管船舶ニ通達方取計相成度

追テ本件ハ軍事上ノ必要ニ基キ一般ニ公表セザルニ付申添フ

記

一、期間

昭和十六年十二月三日〇〇〇〇ヨリ十日間

海軍大臣

昭和 16.12.3. 午後 陸軍省 官房

海軍省 16.12.3. 受 958 防衛課

貴課ニ於テ御処理相成度

文通課御中

防衛課

晝間（日出ヨリ日沒迄）豐後水道ヲ通航スル船舶ハ左ノ地點ニ於テ海軍艦艇又ハ陸上見張所ヨリ航路ノ指示ヲ受クルモノトス

(イ)北航スル場合

(一)深島ノ南東五浬附近

(二)足摺埼燈台附近

但シ成ルベク前記深島附近ヲ適當トス

(ロ)南航スル場合

高島（速吸瀨戸）ノ東二浬附近

（終）

（附圖）

豐後水道方面夜間通航禁止區域

（註）㈠斜線內ハ禁止區域ヲ示ス

㈡⊙印ハ晝間航路ノ指示ヲ受クベキ地點ヲ示ス

第一四一號

保存期限 三年

決裁指定

決行指定

拾年保

陸軍

政務次官 参與官 回付 決裁前 連帶課名

決行(決裁)後 回覧課名

受領番號 壹第六〇八八號 壹第六〇八九號

起元鑑(課)名 鐵道省

件名 軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關スル件

大臣 委

政務次官 委

参與官

書記官

審案筆記者

主務局長 菅井

高級副官 委

主務副官 官房御用掛主計

主務課長

主務課員

主務局課

番號	受領	提出
防衛甲第六三〇號	昭和 年 月 日	昭和拾弐年十二月四日

大臣官房

受領	結了
昭和 年 十一月 四日	昭和 年 十二月八日

連帶

決行(決裁)後回覧

局長 課長

局長 課長

陸密　大臣ヨリ鐵道大臣ヘ回答

十一月二十八日附鐵軍秘第三一〇號及十二月一日附鐵軍秘第三一三號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件當方ニ於テハ異存無之此段及回答候

陸密第三七五八號　昭和拾六年十二月參日

十二月三日附ヲ以テ決ゼラレタル

秘

防衛

鐵軍秘第三一〇號

昭和十六年十一月廿八日

鐵道大臣　寺島健

陸軍大臣　東條英機殿
海軍大臣　嶋田繁太郎殿
（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關シ別紙願出有之候處同行爲ハ當省工場ヘ機關車委託修繕ノ爲已ムヲ得ザルモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

陸軍省 16.11.29 防衛課

昭和十六年十一月一日

東京市麹町區丸ノ内貳丁目四番地
三菱鑛業株式會社
取締役會長　河手　捨二
北海道夕張郡夕張町字大夕張
三菱大夕張礦業所長
右代理人　立花　範治

鐵道大臣　寺島　健　殿

立入許可願

左記ノ通立入致度ニ付御許可相成度候也

記

一、目的　機關車修繕委託受授ノ爲

二十一日

二、工場ノ事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱

札幌市北六條東十四丁目　札幌鐵道局苗穗工場

三、區域　機關車職場

四、期間　自昭和十六年十二月一日　至昭和十七年三月三十一日

五、方法　修繕部分打合ノ場、受授ノ爲

六、作業者ノ住所、氏名及年齡

北海道夕張郡夕張町字大夕張　高橋眞二　五十五才

〃　吉岡梧郎　四十九才

〃　庄司庄太郎　四十一才

〃　土本力太郎　三十四才

〃　砂川永義　二十九才

以上

昭和十六年十一月二日

陸軍省受領 壹第 三八九

鐵軍秘第三一三號

昭和十六年十二月一日

鐵道大臣　寺島健

陸軍大臣　東條英機殿
海軍大臣　嶋田繁太郎殿
（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關シ別紙願出有之候處當方支障無之ニ付許可ノコトト致度此段及協議候

昭和16.12.4. 陸軍大臣

鐵軍祕第三一三號

添付物

立入許可願

本籍　滋賀縣蒲生郡八幡町大字大板拾七番地

住所　東京市日本橋区通三丁目五番地

職業　畳・襖・室内装飾工事請負

西川甚五郎

昭和拾六年拾壱月弐拾四日　書　四十歳

鉄道大臣　寺島健　殿

左記之通り立入致度付許可相成度候也

左記

大宮保線區長

一、目的　大官工場機関車職場其他隠蔽設備工事施工ノ為メ
二、工場事業場其他設備所在地及名稱　東京鉄道局大官工場
三、区域　機関車職場内
四、日時期間　自昭和十六年拾弐月壱日　至昭和十七年参月参拾日
五、方法　機関車職場内隠蔽幕設備工事施工ノ為メ
六、使用器具類ノ名稱　足場丸太其他
七、作業者ノ住所氏名及年齢

東京市本所区錦糸町一丁目二十五	田中由太郎	當五十五歳	
〃	京橋区湊町三丁目十五番地	白井兵三七	〃四十一〃
〃	日本橋区橋町八丁目七番地	金田菊治	〃四十七〃
〃	江戸川区小岩町五丁目四〇	菅田藤治	〃三十四〃

仝　仝　仝　仝　仝　仝　仝　仝　仝　仝　仝

江戸川区逆井二丁目二十三番　丸山市三郎　〃　六十二　〃
神田区末廣町十八番地　村上辰治　〃　五十　〃
深川区清澄町三丁目一　小野松二郎　〃　四十三　〃
本郷区根津宮永町三十七　木本徳治　〃　三十一　〃
本所区太平町二丁目十七　高橋　浩　〃　四十二　〃
本所区向島一丁目十五　平田喜吉　〃　四十四　〃
本所区錦糸町一丁目二十九　西宮傳治郎　〃　三十六　〃
神田区神保町二丁目四八番　桑原繁雄　〃　四十三　〃
本所区小梅町三丁目一番地　小関久五郎　〃　四十三　〃
本所区錦糸町一丁目二十五　田中方　徳沢廣　〃　二十二　〃

仝　仝　小林忠輔　〃　二十九　〃

〃　豐島区西巣鴨三丁目三三六　山口登四男　〃　五才五　〃
〃　芝区浜松町四丁目七　宮沢慶助　〃　四才七　〃
〃　深川区永代二丁目五番地　清水久春　〃　三十一　〃
〃　板橋区高岡寺町三丁目三三四　黒沢百之助　〃　四十五　〃
埼玉縣大宮市大宮二、九〇二番地　小野芳之助　〃　五才一　〃
〃　大宮市宮町一〇五一番地　堀口治吉　〃　四才二　〃
〃　大宮市北手宿三三一　飯島卓爾　〃　五才　〃
〃　大宮市宮町四九一番地　時田定次郎　〃　五才三歳
〃　豊島郡蓮田町字見塚　小林　柱　〃　四才歳
〃　豊島郡岸村南中野四五三　柴田政吉　〃　十九　〃
〃　大宮市宮町　中村伝吉　〃　四才八　〃

仝 大宮市宮町四九一 佐々木勘七ノ五十六歳

八、作業ノ場所、機関車修場

九、成果物ノ員数及其ノ用途、隠蔽幕 八四七六尺平方米

十、其ノ他参考トナルベキ事項、 ナシ

以上

東京都日本橋蠣殻町二丁目 第一師範

第一五號

一六審第一號

昭和十六年十一月十三日

商工次官　椎名悦三郎

陸軍次官　木村兵太郎　殿

（別紙添附）

商工省審議室ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通リ定メラレタルニ付爾今物資動員、生産擴充、勞務、資金調整、物價及貿易等ノ重要事項ニ關シテハ凡テ審議室ヲ經テ連絡スル如クセラレ度其旨關係各部ヘ御指示方配慮相煩度

日本標準規格 B5（182×257mm）

一六文第一五六號

中一般
燃料局
貿易局
物價局

商工省審議室ニ關スル件左ノ通定メ昭和十四年一四文第一九〇號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年十一月八日

商工大臣　岸信介

商工省審議室ニ關スル件

第一條　商工省ニ審議室ヲ置キ商工省物資調整官、陸海軍武官ニシテ商工事務官ヲ仰付ケラレタル者、商工事務官及商工屬ノ中ヨリ審議室附ヲ命ズ

第二條　審議室ハ次官直屬トス

第三條　審議室ニ於ケル所掌事務左ノ如シ

一　物資動員、生産力擴充、勞務、資金調整、貿易、物價其ノ他國家總動員計畫ノ設定及遂行ニ關スル事項ニシテ軍ニ關係アルモノノ立案又ハ審議ニ對スル參畫

二　軍ト關係アル事項ノ軍トノ連絡調整

第四條　審議室附ヲ命ゼラレタル者ハ各局部課ト緊密ナル連絡ヲ保持スベシ

第五條　審議室附ヲ命ゼラレタル物資調整官及事務官ヲ仰付ケラレタル陸海軍武官ハ省議其ノ他必要ト認ムル會議ニ隨時出席スルモ

ノトス

第六條　各局部課ニ於テ立案スル第三條第一號ノ事項ハ總テ總務局ヲ經テ審議室ニ其ノ立案要領ヲ協議シ且之ガ成案ヲ合議スベシ

前項ニ依リ成案ノ合議ヲ爲サントスルトキハ商工省處務規程別記文書起案様式中總務局長ノ行ノ次ニ審議室ト記入スベシ

第七條　各局部課ニ於テ重要事項ニ付軍ト連絡ヲ爲サントスルトキハ審議室ヲ經テ之ヲ行フベシ

第八條　各局部課ニ於テ開催シ又ハ係官ノ出席スル第三條第一號ノ事項ニ關スル會議、打合等ニ付テハ其ノ期日、付議事項、內容等ニ付常時審議室ニ連絡スベシ

第一大號

政務官 書記官 回付（決行前）

拾年保

（決行後）

保存期限	三年	決裁指定	局長委任	決行指定
受領番號	壹第五九一五號	件名	燃料用石炭ノ消費節約ニ關スル件	

大臣 委

政務次官 次官 委

參與官	高級副官	主務局長
書記官	主務副官	主務課長
		主務課員

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	了結
燃甲第二七號	昭和一八年十二月廿四日	昭和拾弐年十二月廿四日	昭和十年十二月廿日	昭和十年十二月九日

起元課（課名）：燃商工料局

審査記者：陸軍

決裁（決行）後	連帶	
局（部）長	局（部）長	
課長	課長	戰備課長
		軍事課長
		防衛課長
		兵務課長

陸軍省 16.11.21 軍事課

陸支普　　副官ヨリ陸軍一般（朝鮮、臺灣、樺太、北海道、滿洲、支那、佛印ニ在ル官衙、學校、軍隊ヲ除ク）（甲）

石炭ノ需給概度ニ逼迫シツツアル現狀ニ鑑ミ部外各官廳ニ於テハ本年度別紙要項ニ依リ煖房用石炭ノ消費節約ヲ實施スルコトト成リタルニ付陸軍部内ニ於テモ本要項ヲ準用シ消費節約ヲ強化セラレ度依命通牒ス

尙右ニ依ル消費節約ノ結果生スヘキ下半期配當額ノ剩余量ヲ購入濟ノモノト否サルモノトニ區分シ陸軍物資統制規則ニ定ムル需給處理部隊毎ニ取纏メ十二月十日迄ニ陸軍省ニ報告相成度

陸支普第二七三〇號

昭和拾六年十一月廿六日

別紙

官廳用煖房用石炭消費節約實施要項

一、中央官廳ニ於ケル煖房用石炭ハ原則トシテ昭和十七年一月一日ヨリ同年三月十日迄ノ期間ニ限リ使用スルコト但シ煖房使用期間中ト雖モ溫暖ナル日ハ焚燒ヲ中止スルコト

昭和十六年十二月十日ヨリ同月末日迄ノ間ニ於テ特ニ嚴寒ナル日ハ煖房用石炭ヲ使用シ得ルコトトスルモ氣溫上昇シタルトキハ直ニ焚燒ヲ中止スルコト

一、地方官廳ニ於ケル煖房用石炭ノ使用ハ原則トシテ左記ノ期間ヲ標準トシ各地ノ實情ニ應シ前項ノ趣旨ニ基キ期間ヲ定メ實施スルコト但シ療養所、作業現場等ニ於テ特ニ必要アル場合ハ其ノ實情ニ應シ適當ノ期間ヲ定メ實施スルコト

北海道　自　十二月十日　至　翌年三月末日

陸軍

東北六縣（青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島ノ各縣）　自　十二月十日
北陸四縣（新潟、富山、石川、福井ノ各縣）　至　翌年三月十日
九州　自　一月一日
四國　至　二月末日
其ノ他　自　一月一日
　　至　三月十日

一、石炭ノ焚燒ニ際シテハ努メテ合理的ニ行ヒ汽罐其ノ他ノ設備ニ就テハ速ニ缺陷ノ補修ヲナシ熱効率ヲ高カラシメ更ニ熱（蒸氣）ノ使用ニ富リテハバルブ開度ノ調節ヲ行フ等無駄ナキ樣各員協力シ石炭ノ節約ヲ圖ルコト

一、煖房用石炭使用ニ富リテハ煖房管理者（直接ノ擔當責任者）ヲ定メ之ヲ實施スルコト

（註、「特ニ嚴寒ナル日」トハ午前六時ノ外氣溫度攝氏一度以下ノ場合トスルコト）

一六燃二第九六六一
昭和十六年十一月十七日

燃料局長官　小金義照

陸軍次官殿

官廳用煖房用石炭消費節約ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ昭和十四年十月三十日附一四燃二第一一〇〇五號並ニ同年十一月十六日附燃二第一五〇二七號ヲ以テ得貴意居候處本年度ニ於テハ石炭需給ノ逼迫シツヽアル現狀ニ鑑ミ特ニ別紙要項ニ依リ實効ヲ擧グル樣御配意相煩度此段得貴意候也

追而本件ニ關シテハ貴管下各廳ニ對シテモ徹底方可然御配慮相成度候

陸軍省 昭和16.11.18 文書課
陸軍省 昭和16.11.18 大臣官房
陸軍省 16.11.18 燃料課

官廳用煖房用石炭消費節約實施要項

一、中央官廳ニ於ケル煖房用石炭ハ原則トシテ昭和十七年一月一日ヨリ同年三月十日迄ノ期間ニ限リ使用スルコト但シ煖房使用期間中ト雖モ溫暖ナル日ハ焚燒ヲ中止スルコト

昭和十六年十二月十日ヨリ同月末日迄ノ間ニ於テ特ニ嚴寒ナル日ハ煖房用石炭ヲ使用シ得ルコトヽスルモ氣溫上昇シタルトキハ直ニ焚燒ヲ中止スルコト

一、地方官廳ニ於ケル煖房用石炭ノ使用ハ原則トシテ左記ノ期間ヲ標準トシ各地ノ實情ニ應シ前項ノ趣旨ニ基キ期間ヲ定メ實施スルコト但シ療養所、作業現場等ニ於テ特ニ必要アル場合ハ其ノ實情ニ應シ適當ノ期間ヲ定メ實施スルコト

北海道　自十二月十日　至翌年三月末日

日本標準規格 B5 (182×257mm)

東北六縣（青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島ノ各縣）　自　十二月十日　至　翌年三月十日

北陸四縣（新潟、富山、石川、福井）ノ各縣

九洲四國　自　一月一日　至　二月末日

其ノ他　自　一月一日　至　三月十日

一、石炭ノ焚燒ニ際シテハ努メテ合理的ニ行ヒ汽罐其ノ他ノ設備ニ就テハ速ニ缺陷ノ補修ヲナシ熱効率ヲ高カラシメ更ニ熱（蒸氣）ノ使用ニ當リテハバルブ開度ノ調節ヲ行フ等無駄ナキ樣各員協力シ石炭ノ節約ヲ圖ルコト

一、煖房用石炭使用ニ當リテハ煖房管理者（直接ノ擔當責任者）ヲ定メ之ヲ實施スルコト

燃料局

日本標準規格 B5 (182×257mm)

（註、「特ニ嚴寒ナル日」トハ午前六時ノ外氣溫度攝氏一度以下ノ場合トスルコト）

燃料局

日本標準規格 B5 (182×257mm)

第一七號

閲

拾年保

米二普通合第三九四七號

昭和十六年十月十四日

外務次官

陸軍次官殿

米墨間懸案解決協定ニ關スル件

本件ニ關シ今般在華府野村大使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付

御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍、海軍、大藏、商工各次官

別紙添附

外務省

陸軍省 16.10.17 大臣官房

海軍省 16.10.17 第一課

後軍省 16.10.17 1621 軍務課

外務省

（日本標準規格B5）

寫

十月四日豊田外務大臣宛在華府野村大使來電寫

新聞報ニヨレハ米墨間ニ内容左ノ如キ協定成立シ來ル九日華府ニ於テ調印ノ趣ナル由ナリ

一 墨政府ノ米國石油會社財産收用ニ基ク繫爭事件ノ最後的解決ハ後日ニ讓ルモ其ノ第一歩トシテ墨政府ハ九百萬弗ヲ支拂フコト

二 數ケ年ニ亘ルヘキ米國政府ニ依ル銀ノ買上ノ協定

三 墨國ノ「ペソ」價値維持ニ關スル協定

四 墨國ノ土地收用ニ基ク米側ノ要求ニ對シテハ墨國ハ三百萬弗以上ヲ支拂フコト

五 汎米道路ヲ含ム墨國道路工事ニ關シテハ米國ハ三千萬弗ヲ融資スルコト

尚右ト別個ニ米墨間ニ特殊品目（米側ハ鑛物及石油ニ對シ墨國側ハ機械自動車人絹ニ對シ）ノ關稅輕減ヲ内容トスル一般的通商協定モ數ケ月中ニ成立ノ見込ナル趣ナリ

外務省

秘

米二秘合第四三八四號

昭和十六年十一月二十一日

外務次官

別紙添附

陸軍次官殿

米墨協定ノ内容ニ關スル件

本件ニ關シ客月十四日附米二普通合第三九四七號拙信ヲ以テ報告申進ノ次第有之處今般在墨西哥三浦公使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍省、大藏省、商工省、海軍省

外務省

（日本標準規格B5）

寫

十一月八日着東郷外務大臣宛在墨西哥三浦公使
來電寫

米墨協定ノ内容ハ諸般ノ情勢ヨリ觀測スルニ收用石油會社問題ヲ始メ大體左ノ諸項ヲ包含スルモノト思料セラルヘシ

一、八六七年以來ノ農地收用ヲ含ム收用土地ニ對スル賠償

二、米大藏省ヨリ墨貨維持ノ爲三千萬弗、輸出入銀行ヨリ貿易改善ノ爲メ三千萬弗ノ借款供與

三、墨國ヲ米國墨銀買付ニ付優先的ニ取扱フコト

四、米墨間互惠通商條約交渉ヲ開始スヘキヤ否ヤ公聽會ヲ開催シテ決定スル旨發表スルコト

五、「リオ、コロラト」及「リオ、グランデ」兩河水問題ノ解決案ヲ發表スルコト

六、米墨陸海軍協力ニ關スル約束

尚兩國間懸案中上記ノモノハ兩國政府間ニ略原則的了解付キタ

外務省

ルモ只石油問題解決案ニ關シテハ被收用財産評價額ニ付米墨間ニ見解ヲ異ニシ「ニューヨーク、スタンダード、オイル」一社ノミノ被收用財産評價額二億弗ナルニ對シ墨國政府カ被收用會社全部ニ對シ評價セル額ハ僅ニ三千六百萬弗ナリ」米國會社ヨリ强硬ナル反對出テタル爲俄カニ停頓狀態ニ立到レル處「パデイヤ」墨外相ハ右ニ關シ四日ノ新聞記者定例會見ニ於テ「米國石油會社ノ工作宣傳ハ最近旺盛ナルモノアルカ右ハ啻ニ會社側ニ不利ナルノミナラス之ニ依リ墨國政府ノ態度ヲ變更セシムルコト不可能ニシテ墨政府ノ賠償ニ關スル方針ハ既ニ米國務省側ニ通告濟ナリ」云々ト說明シ石油問題ニ對スル墨國側意見ヲ表明スル所アリタルカ右聲明ハ同外相就任以來稀ニ見ル强硬ナル態度ヲ示セルモノナリ

(日本標準規格B5)

極秘

電報

外務

第五三九四號

軍務

昭和16.12.4.

大臣官房

米二極秘合第四四九九號

昭和十六年十二月三日

陸軍次官殿

外務次官

別紙添附

陸軍省

16.12.5.

1621

軍務課

米墨協定調印ニ關スル件

本件協定ニ關シ本月二十一日附米二秘合第四三八四號拙信ヲ以テ報告申進ノ次第有之處同協定ハ此程華府ニテ調印ヲ了セル趣今般在墨西哥三浦公使ヨリ別紙寫ノ通電報越セルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍省、海軍省、大藏省、商工省

外務省

（日本標準規格B5）

12.315

寫

十一月二十一日着東郷外務大臣宛在墨西哥三浦公使來電寫

米墨協定ハ十九日華府ニテ調印ヲ了シ其ノ發表ヲ見タル處之ガ内容ハ石油問題ヲ除キ大體既報ノ要領ニ依ルモノナルガ石油問題ハ後日更メテ之ガ解決ヲ計ラントセルハ同問題ノ解決困難ナルコト及同問題ノ爲ニ他ノ諸懸案ヲ未解決ノ儘放置シ得ザル事態ニ在リタルコトヲ示スモノナリ換言セバ米國側トシテハ墨國ガ米洲連帶上最重要地點タルコト同時ニ中南米諸國ニ對シ旗振役ヲ努ムル立場ニ至ル關係上前記石油問題ノタメ同國トノ關係ニ一抹ノ陰影ヲ投シ惹イテハ他ニ累ヲ及ボシ或ハ又墨國ニ對スル米側ノ大陸防衛上ノ諸施設完成ニ遲延ヲ來タス惧アル處右ハ米國トシ此ノ際ハ到底忍ビ得ザル所ナルノミナラス他方墨國側トシテモ物資其他ノ原料難ノタメ目下經濟及産業界ニ頗ル不安ノ狀態ニ在リ特ニ先般ノ經濟協定ノ如ク政府側振起ノ宣傳ニモ拘ラス國民不平ノ聲漸ク高マラントシツツアルニ加ヘ

(日本標準規格B5)

本年ニ入リ墨國トシテハ嘗テ其ノ例ナキ貿易逆調振ヲ示シ爲ニ「ペソ」貨ノ價値維持スラモ困難トナリ居リ政府トシテモ最早事態ヲ此儘遷延シ能ハザルニ至リ又米國モ各般ノ事情ヲ充分檢討考慮セル結果ナルベシト思考セラル

外務省

(日本標準規格B5)

極秘

拾年保

米二極秘合第四四二九號

昭和十六年十一月二十六日

陸軍次官殿

外務次官

陸軍省 16.11.28 1819 軍務課

昭和 16.11.28 午後 書記官室

本件ニ關シ今般在智利山形公使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付

御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍省、海軍省、拓務省

別紙添附

外務省

（日本標準規格B5）